

# ふじちゅうあい

目指す生徒像・教職員像

「自ら光り、

人のために生きる

子ども・教職員・保護者」

『愛にあふれた学校を』

『掃除・笑い・感謝』

〈校長室だより R1#18〉

令和元年 9月 24(火)発行

学年目標

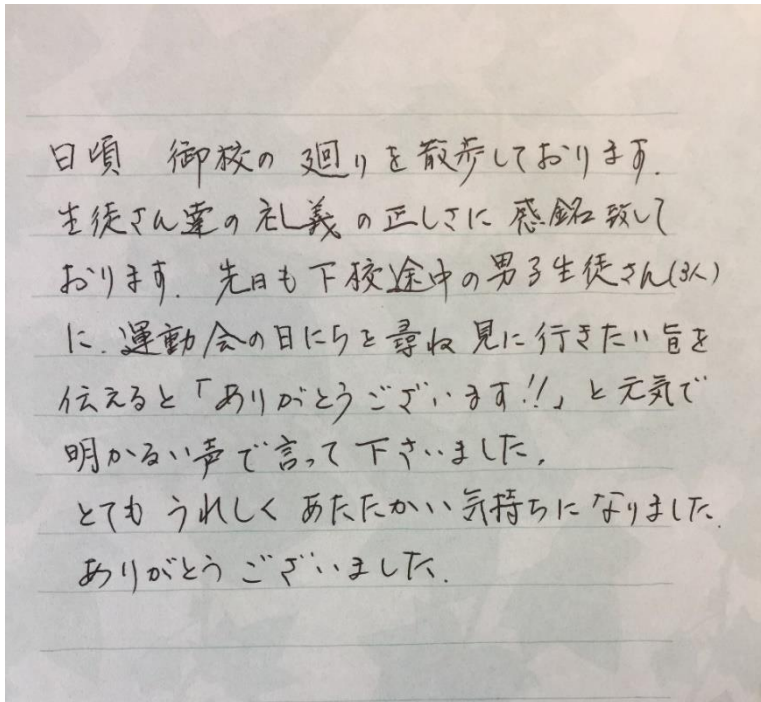
1年 互いに高め合い、感謝の心を実践する生徒

2年 “なぜ、どうして”を大切に、

共に考え、カリッの自分(達)を創っていこう！

3年 目標に向かってとことんやり抜こう

## いま、ここにあるもの、いま、ここにしかないもの



運動会が終わりました。  
いつも、「天気ばかりは、神さまの決めごと」と思っている  
ので、どんな天気でも大丈夫だよ、  
と、天気を待つ姿勢でいます。  
令和元年 9月 5日(木)、  
曇天、でしたが、これ以上はない、  
絶好のコンディションになりました。

右の手紙は、運動会当日、「近隣住民」と名乗る方から『お祝い』  
の中に入っていた手紙です。

これまで、そういったことは、  
私の経験ではありませんでした。

その方は、近くに住んでいる  
のですが、住民票はないのです、  
とおっしゃっていたので、藤中の

卒業生とか関係者ではなく、手紙にあるように、純粹に、子どもたちの姿に感銘をいただき、  
運動会まで見たくなくて、お祝いを持ってきてくれた、という流れ、だと思えます。

私が、皆さんにお伝えしたいことは、「藤中と全く関係のない方が、お祝いをしてくれる  
くらい、日頃の子どもの姿が、あたたかく素晴らしい。」ということです。

そして、今年、藤中の運動会、ほんとうに、やられました。(校長が、そんな、曖昧なことばを使うのはどうかと思いますが、、、感動、という言葉とは、ちょっと、違うのです。)

「やられた。」という言葉、自分なりに表現すると、「心の奥から、深く感じるものがあった。」とでも訳したらいいのでしょうか。

午後は、「闘い系の競技」が多かったので、子どもたちの姿は、心配もしまし



たし、ときどきしました。

主に、午前中のことです。

一生懸命なのは、もう、藤中の子どもたちには、当たり前で、それでも、十分なのです。しかし、

- ◇ 1, 2, 3年生関係なく、どこからでも誰にでも応援すること、
- ◇ 笑顔とおもいきり楽しそうな表情
- ◇ 会場全体が、ひとつになっている感覚

そういう感じは、ここ、藤中にだから、存在する、のではないのでしょうか。

例えば、

◎1年生玉入れの数を数えるとき、グラウンドにいる全員が声を出しているような感じがしました。

◎3年生の全員リレーで、涼馬君が勇作君よりずいぶん離れてゴールに走り込むとき、

応援席から・係の仕事の場所から・至る所から、会場全体から拍手が聞こえていました。

私は、この時、感涙というか感動とかいうより、、、今、ここにいる、この子どもたちは、なんなんだ!?!、という、何か、ここだけの空間、高い次元にいる様な幸福感にありました。

**片** 運動会が終わり、片付けに入ったときのことで。私が物を運ぼうとすると子どもたちは、口々に

「私がやります！私がやります！」と、私の代わりにかなり重いテントの支柱を運びます。

そのかたわらに、3年生の保護者が立っていて、私との10分程度の会話の中に、

「すごく良い、運動会でした~~子どもたち、本当に楽しそうでしたし、がんばってましたね~~~

最後は、だれてしまうのではないかと、思っていたのですが、最後の最後まで、ちゃんとしていて、びっくりしました。」



**保** 7日(土)に、ボランティア・フェスティバルが、今市文化会館であり、その時、いらっしゃった保護者が、

「中学校の運動会って、ほんとうに、楽しいんですね！びっくりしました！」

**帆** 運動会の時に、下原児童館の職員の方に声をかけられました。どうしても話したいことがある、と切り出されました。すると、

「夏休み、帆崇くんには、ほんとうに、ありがたかったです。何度も、児童館に来てくれて、子どもたちの面倒をみてくれたのです。助かりました~~~子どもたちもなついて、大喜びでした。」

**荷** 運動会の次の週、名前はわからない女性の方から電話をいただきました。内容は、子どもが礼儀正しくて、感動したというものでした。小佐越駅で、荷物を抱えていたら、藤中生と思われる男子が、

「お持ちしますか？」と、荷物を持ってくれたとのこと。きっと、相当、その男子に、良さを感じたのですね。

## なぜ、世界一は、いらないのか、

運動会の次の週、女性の方から、電話をもらいました。

からも、希望を持ち、謳歌してほしいと思います。

を、あなたたちからもらいました。ありがとうございました。

バラをきれいに咲かせるには、

3つの大事なことがある。

光と風と人の足音。

6

園芸家の言葉

狐

さ

今現在を

『出あうこと』、そのことこそ、新しい『縁』と『希望』の始まりだと思ひます。麻紀江先生、よろしくお願ひいたします m( )m

もう一度、夏々さんの言葉を抜粋します。

「これからの日本を変えていくのは、

私たちの小さな勇気です。」

「どんな小さなことでもいいので、手を差し伸べてみてください。」

「若い私たちが動き出すことで、これからの日本を変えていくのだと、私は信じています。」

## 運動会直前 !!!

右の写真は、8/26 始業式の放課後に、体育・生活委員、本部役員で立てられるテントです。

特に、琉生くん・涼馬くん・俊くんにより、様々な言葉や指示が出され、子どもたち自身で、運動会に向けて、子どもたちの手で、創りあげられる感じがします。去年の記憶は薄いのですが、「あれ、子どもたち、練習の時から、こんなに、全面に出たっけ?」という印象を持ちました。



## 35 個、琉生くんの想い

1 学期の終業式の時に、「夏休み中にごみ拾いの競争をする人は、ごみの数を覚えておいて下さい。」と伝えました。

私：山口が拾ったのは、県大会会場の近くや家の近所、ほんのわずか、35 個しか拾えませんでした。

琉生くんですが、8月のある日、明峰高校から日光駅まで歩き、①明峰高校から神橋までは『自分のごみ』、②神橋から日光駅までは、『校長先生のごみ』として、拾ってくれたということを知りました。

夏休みは、犬が不調で、可能な限り一緒にいたので、お盆の線香を上げること以外は、ほとんど家にいたのです。それをきくと案じた琉生くんが、私の分まで拾ってくれた、と聞き、涙し、ぼうっとしていた頭をたたかれたような気がしました。そして、琉生くんにとっても感謝しました。琉生くんに拾った数を聞いたところ、神橋辺りで 100 個を超えて、もう数えるのを止めたとのこと。それも、結局は数にこだわらないところが、なんだか、ほほえましく思いました。

他にも、夏休みにチャレンジしてくれて人、ぜひ、報告ください!!!

---

今年の夏休みは、先生方は、9月に様々なことが控えているので、いつもより忙しい夏、だったと思います。ちょっと事件もありました。しかし、私は、「今、藤中で、何か、大きなことが起こる気がしない。」という根拠のない自信のようなものがあり、穏やかに過ぎていった感じがします。それも、子どもたち・保護者の皆さん・先生方のおかげです。

2 学期始業式の意見発表は、1 年生が渚くん、2 年生が莉瑠さん、3 年生が愛さん、3 人とも素晴らしい発表でした。特に、愛さんの、

「1 日、1 日を大切に !!!」という言葉は、今の私に、とても響きました。本当に、私事で恐縮ですが、始業式が終わった後に、私の母親から、「飼い犬が変だ!」という連絡があり、時休をもらって、病院に行ったのですが、「もうだめだ」と思った瞬間がありました。結果は、大丈夫だったのですが、( ^\_^;;、「何事もない普通の毎日が幸せの本質。」そして、今日 1 日が終わることに、十分に感謝して、新しい日々に向かいましょう。



鹿沼市立北押原中学校から参りました、古澤麻紀江と申します。

始業式に初めて生徒と対面して、式中の態度が大変立派なことに驚いたとともに、藤原中の生徒と過ごす学校生活がとても楽しみになりました。

生徒が健康で安全に学校生活を送れるようサポートしていきます。どうぞよろしく  
お願いいたします。